

ふるさとだより

2024年12月

社会福祉法人 聖フランシスコ会

ふるさとの家



〒557-0004 大阪市西成区菰之茶屋3-1-10

Tel 06-6641-8273

Fax 06-6641-8215

〔郵便振替 00930-2-50858〕

E-mail: cs-furusato@jasmine.ocn.ne.jp

ふるさとの家を支援してくださる皆様へ

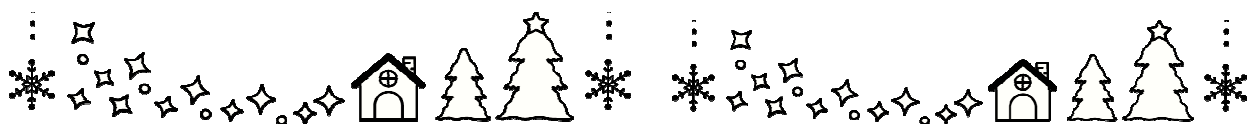
支援者の皆さん。皆様のご協力によってふるさとの家今まで活動が続けることができ、感謝しています。年間32主日の日曜日のマルコによる福音に次のように書いてあります。「神である主を愛し、隣人を自分のように愛しなさい。この2つにまさる掟はない」とイエズス様は言われました。(マルコ12:28)

神への愛と隣人愛は切り離すことができない。祈る時に合わせる手は人を助ける手でもあります。人に対する手当をしない人は祈り時に合わせた手は神様の賛美になりません。

献金箱の前に座っていたイエズス様は言われました。「大勢の金持ちがたくさん金を入れたが1人の貧しいやもめはレプトン銅貨2枚、すなわち1クアドランスだけ入れたが、この貧しいやもめは献金した人の中で誰よりもたくさん入れた。貧しい中から自分の持っているすべて、生活費を全部入れたからである」(マルコ12章)

支援する皆さんに自分もホームレスであったイエズス様が釜ヶ崎の皆さんを代表して感謝されるでしょう。

ルカ神父



談話室より

マーコ

長い間、釜ヶ崎で活動してこられた「一休作業所」が終了することになりました。ふるさとの家の利用者がメンバーになったり、物資なども分かち合っていたこともあり、一休スタッフがふるさとの家の支援者の皆さんにもお礼が言いたいということで

お知らせを載せることにしました。

月・金曜の早朝のふるさとの家の前のバザーは、雨が降ろうが槍が降ろうが、労働者の日当のためにと休むことなく続けて来られました。おっちゃんローソク作りは最初「自信がない、(自分に)できるかなあ」と言う労働者をスタッフが励まし、職人のようになっていく姿がありました。一休がなくなると私たちも常連の皆さんも、なによりも月・金の朝がさみしくなります。

(ふるさとの家のバザーは引き続き行いますので変わらずご支援よろしく願いいたします。)

「高齢労働者作業所・一休」終了のお知らせ

高齢労働者作業所・一休

この度、2024年12月末日をもちまして、約35年間活動してきた「高齢労働者作業所・一休」を閉じることとしました。

40年前、西成の三角公園の炊き出しに500人以上もの方々が並ばれました。その支援に参加していた誰もが、炊き出し以外にも路上生活を強いられている方たちのためにできることはないか、何ができるかを模索していました。その1つとして、被昇天・愛徳姉妹会・援助修道会・守護の天使などのシスターと数名の女性ボランティアが集まり、路上生活をされていた方々と共に動き、共に仕事をし、少しでも生活の糧を得る手立てを見つけないかと考え、活動を始めました。

教会や保育園の庭の樹木の選定や草取り、畑のお手伝いで、日当をいただきました。皆様から送っていただいた物資を「ふるさとの家」の前で販売し、日当を生み出すことができました。酒屋さんを回って拾い集めたお酒の瓶に、教会やホテルや結婚式場などから頂いた蠟燭を溶かして、注いで、「おっちゃんローソク」を作り、1本100円で販売。近隣のみならず九州や広島・山口、神奈川などの教会や学校・個人の方からもご注文をいただき、その売り上げを日当とすることができました。数年後「一休」として炊き出しグループから独立。多くの方に支えられて活動を続けさせていただきました。

この間、一緒に働き、日当をお渡ししてきた高齢者の方の人数はそう多くはありません。一つの作業に参加していただけの方は2～3人です。それでも、そのかわりを通して生活保護を受けるようになり作業所を卒業された方、仕事を見つけてついには正社員として働けるようになり西成を後にされた方、家族の元に帰って行かれた方などもありました。何人かの方は施設に入所され、また何人かの方の人生の終わりにも立ち会わせて頂きました。気が付けば、スタッフ自身も高齢となりました。

「ふるさとの家」の前でバザーをしながら見てきた景色も随分変わりました。介護施設の車が走り回り、自転車で移動する介護ヘルパーさんや外国の方たちの多いこと。バザーにもネパールやインドネシアなど外国の方が増えました。「おっちゃんローソク」のガラス瓶を探して歩き回った町の酒屋さんは多くが閉店、ついに瓶を集めることが不可能となりました。

作業の依頼ありがとうございました。物資を送っていただきありがとうございました。蠟燭の材料をありがとうございました。「おっちゃんローソク」のお買い上げありがとうございました。資金援助ありがとうございました。いつもいつも気にかけて下さり、本当にありがとうございました。心よりの感謝をこめて。

援助修道会 大野 晶子

守護の天使の姉妹修道会 エンマ
ボランティアスタッフ 溝口 昭江



80歳近くになっていろんなものを断捨離していると54年前の文書が出たきた。若く純粋で一途な私の独り言でした。

「近代化された日本、オリンピックが行える日本、36階ビルが立ち並ぶ日本、Expo日本。しかし真の日本ではない。スラムで一日一日食いつなぐ、差別苦しむ人、働いても働いても報いられず、働いても働いても子供を幸せにできない人。そんな人たちを幸せにできず、理解できず、理解しようとしもないでいる社会、人々が最も見るのを恐れ、知るのを恐れ、聞くのを拒む(そこに責任が生じるから・・・)しいたげられた底辺の社会を正視できずにいるのが偽らない日本だ。そんな国で何にも出来ずに生き、自分のことしか見ないで生きることが、いかに恥ずべきことか気付くことだ。万博なんて行くものかと反発しながら」

54年前、大阪万博が開催され兵庫県の小さな町で万博ツアーがあり、こんな思いの私を残し、母が困った顔をして出発したことを思い出しました。月日がたち、子育ても終えた頃、本当にマスコミや世間の人たちが言う恐ろしい街なのか、確かめておこうと思ったことがきっかけで、ふるさとの家の活動を手伝えることになりました。この街を通して、日々の本当の姿に出会えています。万博の仕事の後、この街にとどまり様々な仕事をしてきた方々、「原発の掃除の仕事で昼も夜も働いて、防具などもまともになく、炉に入ると全身の産毛が逆立ち驚いた」と言う人、電柱の上のトランスを指さし「いつも担いで運んだんやで」とひどく腰が曲がった人。親指がない人は「マグロ漁船でロープに指を持って行かれて骨だけ残り、はさみで切断したんやで一、も一そら痛かったわ」と。もっもっとな聞かせて・・・と立ち話にも力が入ります。この街で何年たっても育てられ、教えられる日々を送っています。



シスター徳原のおにぎり

Sr.マリア・ラン

釜ヶ崎では一年を通して野宿者の人々の命と安全を守るために種々の団体が支援をしています。今年も11月から来年の4月までふるさとの家のグループの越冬夜間パトロール(夜まわり)が始まりました。毎週月曜日、5人のメンバーが交代で夜8時から大体10時近くまで、釜ヶ崎や天王寺周辺、難波周辺にいるホームレスの人々のためにおにぎりを約50個準備します。

そのおにぎりを一人で頑張って作ってくれるのが愛徳姉妹会のシスター徳原です。シスターは今年91歳になり、最近大きな手術をしたのですが、回復して、また今年も一人でおにぎりを作ってくれています。その作ってくれた大きな海苔巻きおにぎりとかイロや毛布を自動車に積んでメンバーがパトロールします。

シスター徳原は釜ヶ崎に30年前から住み、労働者と行政との闘争の時代から、現在、様変わりして別の問題を抱えている釜ヶ崎もよく知っています。ある人が「シスターは年をとって、体が弱くなってきて、休むことは当たり前なのに、今でも働き続けているのはなぜですか？」と尋ねましたら「私は釜ヶ崎に30年間住んでいます。この30年間ホームレスの人々のことを心から手伝ってきました。そして今、ふるさとの

家のボランティアとして、毎週おにぎりを作る事が出来ることは、私にとっては終わらない喜びの時です」とシスター徳原は言われました。シスター徳原が一人でおにぎりを作っているのを見ると感激します。シスターが苦しい環境に追いやられている人びと、または社会の片隅で生活することを余儀なくされている人びとに、偉大な愛徳の精神を持って奉仕すること、同じような心で私も人々に奉仕することができたらと希望しています。



今回もおじちゃんたちが楽しい話題を提供してくれました。古賀 詩子

消毒液山もり?



誰が支援者?



かわいいウソ



逝ってしまったAさんへ

嶋田 ミカ

Aさんが突然いなくなったと聞いたのは、去年の9月でした。部屋はいつも通りきれいに片付き、冷蔵庫には総菜が残され、机の上には前日までの体温記録。家出？失踪？でも「旅支度」を持ち出した形跡はなく、貴重品もそのままでした。近所で倒れたか、事故ではないかとすぐに搜索願を出しました。

あなたとはもう20年以上の付き合いですね。私が訪ねるといつも「よく来たなあ。しばらく来ないから忙しいんだと思ってた」とニコニコとコーヒーをいれてくれて、たわいもない世間話をしましたね。あなたの穏やかさに癒されて居心地が良く、つつい長居してしまったり。パチンコでもらったライターやお菓子、割り箸などを貯めては寄付してくれたっけ、ありがとう。

いつも温厚で安定していたあなたが、80歳を超えてから体調や通院について相談に来ることが増えたから、なんとなく不安なんだなと感じていたのに、せっかく来てくれても「ちょっと待って」「大丈夫だから」などという言葉で誤魔化し、受けとめてあげられなかったことが、本当に悔やまれます。

失踪から約1年、こんな神隠しのようなことがあるのか。認知症でもなかったのに、どこかの病院に身元不明者として収容されているのでは？ だんだん生還の希望は薄れつつも、頭の隅から離れませんでした。

今年8月、警察からの白骨遺体が山中から発見されたという知らせがありました。遺体に死因となる外傷骨折はなく、所持金もあるので、自殺だろうと言われてショックを受けました。全く信じられず「これから自殺する人が、毎日検温しますか？」と反論しました。あんなに何でも相談してくれてたあなたが、何も言わずに自殺するはずがないという思いと、自殺であったとすれば私にも責任の一端があるという恐れが心の中で入り乱れ、頭の中はパニックでした。できればあの世まで追いかけて行って、「どうして私に断りもなく勝手に死んだの？」と問い詰めたい気分でした。

9月末、遺体が発見された自治体と警察のご厚意で、Aさんの火葬とお骨上げに立ち合い、遺骨をふるさとの家に連れて帰りました。その中で私もようやく、あなたの死と、死に至る選択を受け入れることができた気がします。

Aさん、力になってあげられなくて、ごめんなさい。いつ来ても「忙しそう」なオーラを出していた私。「迷惑かけちゃいけない、話を聞いてもらえない」と感じ、一人で悩んでいたのでしょうね。これからは、不安そうに相談室を訪れる人たちの声に、真摯に耳を傾けていこうと思います。あなたのような思いをさせないように。だからAさん、安心してお眠りください。



フランシスコ会 ヨセフ杉浦 信之

ふるさとの家でお世話になりはじめて一年半が経ちました。大阪の修道院に赴任したので、何かお手伝い出来ればという気持ちで、お願いしてお世話になっています。

6、7年ぶりの訪問でした。来て驚いたのが、釜ヶ崎という街が変わったという事です。外国人の観光客が増え、若い女の人が飲みに来るなんて、以前はほとんど見る事が無かったことでした。SNS等で釜ヶ崎が紹介され、安く泊まれ、食べることが出来、昭和の雰囲気が残る街として多くの人たちに知られたからだと思います。多くの人が訪れることにより、街が潤うと良いこともあります。

しかしそれ以外にもたらされた事も多いように思います。高齢化により、生活保護や年金で住む場所を確保している方が増えたのがありますが、炊き出しは毎日どこかでやっているの、とにかく食べることが出来るわけです。最近は餓死者や凍死者が激減しています。これは支援する方々が増えたという事です。街が紹介されることにより、この街の事を考える人が増えた。或いは、ハードルが下がったということなのかもしれません。でも、それだけではないんですよ。行き場のない人たちがたどり着く街、これが本来のこの街なんですよ。あるおっちゃんが「俺たちは動物園の動物か?」と言っていました。本当は、みんなそっと生活している街なのに、面白可笑しく紹介されるのを見て、私も憤りを感じました。そんなこともあり、ふるさとの家のスタッフ会議で問いかけてみました。そこで帰ってきた言葉は、「どんな形でこの街に来る人でも受け入れるのがこの街のいいところだと活動している人も多い」という言葉でした。この地域で活動する人にとっては本当にそう思うのでしょうか。そもそも部外者である私が評価すべきことではないのだと恥ずかしく思いました。

熱気やら活気があった以前のこの街を懐かしみたくりますが、変化を受け入れることも大切なのかもしれません。例えば、自分の街が汚いだの危ないだの言われていることを嬉しいと思う人はいないでしょう。自分の街に興味を持ってくれる、訪れてくれる。それは喜ばしい事です。面白おかしく紹介されて「?」思う事もあります。手放していいとは言いきれない気持ちもありますが、それによって喜ばしい事がもたらされていることに感謝し、大切にしたいと思っています。

🌸🌸🌸🌸🌸 ボランティア紹介 🌸🌸🌸🌸🌸

シスター北村 古賀さんと同じヌヴェール修道院のシスターでお便りの発送作業、インターナショナルデーのバザーなどにシスター二宮とペアで来てくださいます。

笹田みすずさん 退職されたのを期にふるさとの家のバザーのボランティアに来ていただくことに。30年以上物心ともに支援者として支えて下さっています。

事務室より

☆ 2024 年度中間会計報告

(2024 年 4 月 1 日~9 月 30 日)



単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
寄付金	7,028,479	人件費	6,124,595
受取利息	696	活動費	1,279,983
雑収入	412,557	資金収支差額	37,154
合計	7,441,732	合計	7,441,732

雑収入：バザー売上 売電

人件費：常勤 1、非常勤 4

活動費：事業費（保健衛生費、教養娯楽費、水道光熱費等）

事務費（ボランティア交通費、通信費、消耗品費等）



★寄付金控除について

社会福祉法人聖フランシスコ会ふるさとの家への寄付金は所得税、相続税の寄付金控除や法人税の損金算入など税制上の特別措置が認められています。なお、以下の点にご注意ください。

- ・当法人は、「税額控除対象法人」に該当していません。
- ・当該寄付金は、各都道府県が指定する寄付金に該当しませんので、住民税での寄付金控除対象外です。

詳細は国税庁のホームページ（<http://www.nta.go.jp>）でご覧いただけます(寄付金の種類（所得税）の方には公益社団法人等寄付金と記入いただき、寄付金の種類（住民税）は空欄でお出してください）。

※寄付金控除を受けるためには確定申告時に「領収書」が必要です。大切に保管していただくようお願いいたします。

★お願い

2022 年 1 月よりゆうちょの振込手数料が変わりました。

*ゆうちょ口座からゆうちょ口座への振込→手数料はかかりません。

*振込用紙を使って現金で振り込む場合→送金者にも 110 円の手数料がかかることになりました（ので、お手数ですが窓口で送金額より手数料 110 円を引いてもらった額をお振込み下さい）

ふるさとの家で必要なもの

特に不足しているもの 靴下(男物)・かみそり・ライター (共に使いきり用)

石けん (大・小・液体)・タオル・割りばし・使いきりマスク

●男性用の衣類(季節のものを) ・肌着 (パンツ・シャツ、新品を)

●お菓子 (誕生会に) ●お茶・コーヒー・クリーム・砂糖

●インスタントラーメン・缶詰・レトルト食品・防災食

●綿棒・ガーゼ ●洗剤 (洗濯・食器用)

●大きめの紙袋・買い物袋 ●雨具 (カッパ・傘)

●運動靴(スニーカー24~26cm)、大きいカバン・リュック

●毛布・寝袋 (10月~3月の間のみ、きれいなもの。布団は使えません)、カイロ



注意

※ 食品は賞味期限内のものだけをお願いいたします。

布団、背広・コート・カッターシャツ、女性衣類、子ども衣類、季節に合っていない衣類、汚れていたり破れていて人に渡せないような衣類は、使えませんのでくれぐれもご注意ください。

その他、保管場所がありませんので、負担になるものはご遠慮ください。

支援をお願いして申し訳ありませんが、荷物に現金を入れないでください。現金は郵便振替でお願いします。

以下、釜ヶ崎の仕事と生活をかちとる会の炊き出しと連帯しています。ご支援をお願いします。

三角公園の炊き出しで使うもの

お米、調味料、日持ちのする野菜、乾物など

* 送り先 557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 3-1-9

愛徳姉妹会 気付 かちとる会 宛

問い合わせ Tel 06-6641-0069 Sr 鮫島

* 礼状が必要な時はふるさとの家に「かちとる会 宛て」と明記して送ってください。



☆荷物についてのお願い☆

「日曜・祝日・隔週土曜日」は、ふるさとの家の休みとなっています。

宅急便などで荷物をお送りいただく際には、月曜から金曜の午前12~午後5時までに届くように、お願いします。